



シルバーだより

(創刊 300 号記念号)

No. 300

平成 27 年 6 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

— シルバーだより 300 号に思う —

名誉学長 原田 治子

六畳の狭い部屋に、一畳ほどの大きな机がどすんと構えています。一日のうちで最も落ちつくのがこの机に向かった時。誰にも障られない私ひとりの世界になれるから。そして、動きが鈍くなった自分に言いきかせることは—午後になれば午後にしかりみられない風景がある。人生の午後をゆっくり歩いて心あたたまる人間風景にたくさん出会おう。自分にできなくなったことを嘆かず、自分にできることを探しながら—と。

この 6 月号は記念すべき 300 号です。

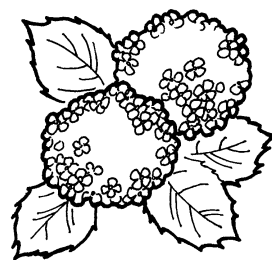
昭和 59 年 (1984 年) 4 月 16 日、入学生 148 名で第一回開講式。およそ 1 年後の昭和 60 年 5 月 15 日にシルバーだより第 1 号が発行されました。

「私たちの誇り」と題して、水越清次初代理事長が巻頭言を書いています。社会に信頼される高齢者であれと呼びかけている手書きの文字からは、最後 (平成 17 年 3 月 31 日逝去) まで創設者の矜持を保ち続けた、自負心と責任感が偲ばれます。

第 2 号 昭和 60 年 7 月 15 日発行。第 3 号 昭和 60 年 10 月 1 日発行。

秋山照子二代理事長の文字が見られます。内面にある優しさがあふれている懐しい文字です。第三日暮里小学校長退職が昭和 61 年 3 月 31 日ですから、退職前からシルバーだよりに関わっていたことがうかがわれます。平成元年学長に就任以降も、水越絹代さん、藤林誠一さんとの懸命な努力が実って、平成 3 年度から「毎月号」として発行されるようになったのです。平成 17 年 4 月 1 日理事長に就任されてからも (平成 24 年 2 月 23 日逝去) 常々口にしていたことは「シルバーだよりは正しい情報を提供し、学生の心を繋ぐもの」でした。

先人、木を植えれば後人涼しの如く、先人が丹誠こめて植え育てたシルバーだよりの苗を、私たちは 300 本の年輪を刻む大木に育ててきました。年輪には、成長に関わってこられた方々が与えた栄養や清らかな水が、しっかりと貯えられています。感謝、感謝。長きにわたり広報部として、そして平成 19 年から 26 年まで、広報部長として活躍した佐藤恒子さん、ありがとうございました。



現在の在籍数はおよそ 900 名。この学生が一堂に会して、確かな意思の疎通をはかることは困難です。それをシルバーだよりが補っているのです。

「シルバーだよりは正しい情報を提供し、学生の心を繋ぐもの」 秋山照子二代理事長が遺したことばが、300 号発行にあたり、一層深く心に刻まれます。

役員はすべてボランティアです。私たち編集委員も（高山・井口・水越・宮澤・原田）ボランティアでシルバーだよりを作っています。毎月数日間、額を集めて企画・原稿依頼・原稿集め・編集・推敲・校正…。体や神経も疲れます。しかし、多くの学生が生き甲斐とする、楽しい学び舎を支えている大切な役割を担っていると思うと、「利己利他」のわが行為に少しばかり豊かな気持ちになります。何よりも高価な報酬は、在校生全員がシルバーだよりをしっかりと読んでくれることです。

どんなに学生数が増えようと、シルバーだよりが号数を重ねようと、量の増大だけでは成長したことになりません。質の向上があってこそ、誇れるわがシルバー大学になるのでしょうか。では質の向上とはどんなことか。知識・技能・技術を深め高めることだけを目指すではありません。学校の運営に関心を持ち、建設的な意見を寄せること。自分さえよければではなく、共に学ぶ人たちのいたみや悲しみに寄り添い、助け合うこと。そして、みんなの力で「心あたたまる人間風景そのもの」の学校を育てていくことです。

人生の午後だからこそ、若い時には素通りしてきたものも見えたり感じたりします。どんなに些細なことでもいい、一日の終わりに「ああ今日もいいことしたな」と思える生き方をしたいですね。愛の反対は憎しみではなく無関心です。あなたもシルバーだよりの担い手です。

「シルバーだより」は、平成 27 年 6 月で 300 号を迎えました。

「荒川シルバー大学」は、昭和 59 年開講、「シルバーだより」は翌昭和 60 年 5 月 15 日に創刊されました。それから 30 年休みなく発行されております。

創刊号は初代理事長水越清次氏の手作りでした。今回、創刊号を復刻して掲載いたしましたので、ご覧下さい。

創刊から現在に至るまで、記事の執筆にご協力いただいた方、編集に関わってくださった方、愛読してくださった方、すべての方に感謝いたします。

これからも学生の皆様に愛読していただける「シルバーだより」を発行できますように事務局・広報一同務めてまいります。

「シルバーだより」へのご意見、ご希望をお寄せくださいますよう、お待ちしております。

（ 広報部長 高山 順子 ）

《 300号記念おめでとうございます 》

気功教室講師 原 幸代

「シルバーだより」と共に歩いて来た大学の歴史の中で私は、様々な出会い、別れ、感動、喜び等多くを経験してきました。

私の気功教室も今年11年目を迎えます。11年前水越先生から講師依頼のお話があった時、半年後か1年後に次の講師とバトンタッチしましょう、という条件でお引き受けしました。気功の団体の事務局長と気功指導員を養成するのが私の仕事ですから、外に出ることはなかったのです。

けれども、1年のつもりが2年、3年経った頃、10年は務めさせていただきますと皆さんにお約束しました。その間、多くのシルバー大学の人生の先輩方から沢山のことを学ばせて頂き、心より感謝申し上げます。つたない私が10年以上も続けられたのは、主に次の三つの理由が挙げられると思います。

- ① シルバー大学の学生は60歳以上にもかかわらず、いやそれだからこそ前向きで、何かを学びたい気持ちが満ち溢れている。
- ② 健康の大切さをどの世代よりも痛感していて、気功のレッスンに熱心であること。
- ③ 私は沖縄出身ですが、荒川の皆さんは裏表のない



おおらかなお人柄の人が多く、沖縄の気風と同じで、気功教室の皆さんと接していると、まるで沖縄に帰ったような楽しい気持ちになることです。

もっともっと沢山ありますが、これからも楽しく元気に教室を続けて少しでも皆さんのお役に立てるようにと願っております。

「シルバーだより」と共に歩み続ける、プラチナの輝きを放つシルバー大学の発展を心から祈念いたしております。

3ページは「シルバーだより 第1号」の縮小版です。
実物大のたよりをご覧になりたい方は、お気軽に事務室
にお立ち寄り下さい。 (広報部)

《 歌は楽しい！ 》

歌声クラブ教室助手 高橋 建司

4年目を迎えた教室が5月12日にスタートした。ピアノ担当の本田先生の選んだ第1曲目は「鯉のぼり」♪いらかの波と雲の波 重なる波の中空を…みんな昔の子供の頃を思い出して声を出す。今年度の新受講生19名にも414ページもある唱歌・童謡や外国の歌もある歌集が初日に間に合った。歌の好きな人達が86名も集まってきた。

土曜日の音楽教室と重複受講者もあれば、区内の合唱団に入って歌っている人もいる。2曲目は「若葉」、昭和17年の戦時中に作られた歌であるが、初夏のみずみずしい新緑の風景の平和な穏やかな歌詞である。「春の小川」「せいくらべ」と先生のピアノに合わせて歌は続いた。後半はいつものように“流行歌”も歌う。今回は“潮来笠” “東京ラプソディー” “青い山脈”、何やら童謡、唱歌より声が出ているのはどうしたことだろうか？以前教室のアンケートの中で、一部の人は、あまり唱歌、童謡は歌えないと回答する人があったのは意外だった。

昨春、父親の転勤で海外の学校に転校した小5の孫娘から、小学校6年間で歌う「歌はともだち」という歌集をもらった。176ページの小さな歌集を見ると、あまりにも我々の時代と曲名が違うのに驚いた。

赤とんぼ、里の秋、ふるさと…など、我々が歌った曲のあるのは数える程しかなく、春の小川、浜辺の歌、埴生の宿、朧月夜…など多くの歌が削除されているのにびっくりした。

親が教えない限り上記の歌は子供達から消えていく運命なのだろうか。歌い継がれて欲しい曲がまだまだ沢山あるのだが…。

歌声クラブはぶっつけ本番、次々と歌ってゆくが、ラジオ時代に育ち、今よりも娯楽の少ない時代に育った者の集まり、多くの人達はよく歌を知っている。重複した歌もあるが、教室が始まって3年間で過ぎ、数えれば700曲くらい歌ったことになる。

しかし、300号になる「シルバーだより」は、単純計算でも30年前に創刊されている訳だから、それに携わった方々は大変な努力を積まれたことだろう。創刊当時のものがあれば、ぜひ読んでみたいものである。



6 月 の 行 事 予 定

期 日	行 事 内 容	講 師
19 日 (金)	合 同 講 義 「地方自治体から見た荒川区の明日」	荒川区長 西川太一郎様
会場：ムーブ町屋 三階 ムーブホール 時間：午後 2 時より		

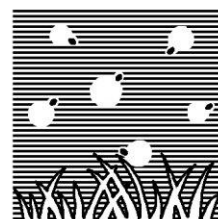
◆◆◆ 学園日誌(5月) ◆◆◆

13日	常任理事会・役員会 開講式の件/規約・名簿配付他	18日 講義打ち合わせ (ムーブ町屋) 22日 第一回講義・天中軒轟氏他3名 「語り浪曲の世界」
14日	台湾より学校訪問 黄淑珍様・武沢華様 絵手紙・輪踊り民舞教室 の授業参観	20日 広報委員会 26日 広報委員会 28日 シルバーだより300号作成

※事務局だより※

1. 注意事項：冷房のスイッチ・戸締り・忘れ物・ごみのチェックをお願いします。
2. 役員一覧について：7月の役員会後に、各地域の班長さんより会員全員の方へ配付されます。「規約・名簿」の8頁に貼って下さい。
3. 7月の常任委員会：7/1 (水) 午前9時半～

役員会：7/1 (水) 午前10時半～



水越幾子様を悼む

水越幾子様が去る4月23日逝去なさいました。荒川シルバー大学初代理事長・故水越清次様の奥様として、創設のご苦勞を共にされた方でした。また32年間にわたり在籍し、本誌をご愛読いただきました。在籍する第一期生としても最後のお一人でいらっしやいました。荒川区の高齢者が素晴らしく元気な訳は？と問われたら「荒川シルバー大学があるから」と私は答えます。語り継がれる方が黄泉の国に旅立たれました。合掌

TEL3801-5740 FAX3801-5691

(ホームページ) <http://www.arakawa-silver.com/>

室長・田原